

今年も保育園の玄関の軒にツバメが巣をつくりました。親が餌を運んで来る度に、四羽の可愛い雛たちは大騒ぎ。子どもたちもツバメの成長が気になるのか、頻りに観察していました。巣立っていつてしまうと、子どもたちは毎日「ツバメの赤ちゃんはどうしたの?」「出て行ったの?」と、とても寂しがつていました。すると、みんなの願いが通じたのか、空き家になった巣に、また新しいツバメが巣をつくり、子どもたちが見守っている間に、今年二度目の四羽の雛たちも元気に巣立っていきました。来年も安心して戻っておいで、みんな待っているから。

また、子どもたちの春先からの人気No.1はダンゴ虫集め。園庭の石・遊具の下、隅から隅まで探し回ってビニール袋に集めます。袋には丸くなったダンゴ虫がいっぱい。ですから、この時期は乱獲でダンゴ虫の数も激減!! ここは、ダンゴ虫君たちの受難の場所かもしれません。

私たちの園は開園六年目、子育て支援の拠点として、白藤地域を中心に地域とともに歩んできました。前法人から通算すると、この地で三十年、多くの卒園児を送り出しました。某家電企業の工場に隣接していることもあり、広範囲からの入園も多く、入園要件・市営団地の整備等により、近隣からの入園も増えてきました。

保育の形態も、一人ひとりの個性を大切に伸ばし、育むコーナー保育主体にシフトし、更に一人ひとりを大切に、違いを認めて育んでいます。

園に隣接して、姉妹園の知的障がい児通園施設「なでしこ園」があります。「一人が一人として尊重され・のびのびと豊かに生きるために」を合言葉に、「両園の乳幼児が障がいの有無にかかわらず、互いにかかわりをもって育ち合うこ

そのことで、自分を愛し、他人に思いやりがもてるようになること。

③ 温もりのある、安心できる施設
親子の健全な成長への協力（健常の子と親、障がいをもちつ子と親がよい関係をもつよう協力し、子育ても楽しくなるように支援していく）。

④ 施設のオープン化・社会への貢献
子育て支援のニーズは更に増えると考えられ、

風

すべての子とともに 歩める保育を

熊本県熊本市・しらふじ保育園園長
森本成一

とを目標に、療育・保育を行っています。

■インクルージョン理念の実現

① 一人ひとりを大切にする療育・保育

子育ての基本は、個人の尊厳と平等の遵守です。平等とは「何でも一緒」ではなく、その人にあった状態にすること。

② 思いやりをもって支え合う保育・療育

統合保育のよきは「違いを認識できること」。

乳幼児から高齢者までのかかわりの中で育まれる育ち力、癒し力は家族・地域に求められており、両園がセンター的にその役割機能をもつ。

今、保育界は保育制度の変更、新保育指針の大綱化と激動の時勢、先の見通しがつかない状況です。しかし、この地の保育を担う一人として、地域とともに一人ひとりの園児と向き合い、育ち合える保育園であり続けたいと思います。